

5月15日(水)

命を守るために ～避難訓練 不審者編～

- ① 駐車場に見知らぬおとなが現れ、おとなたちは連携を取りながら
こどもたちを避難させます。



- ② 見知らぬおとな = 不審者は
佐倉警察署生活安全課の警察官のかたが扮していたのです。

訓練の最後に、自分の身を守るために危険を察知した時は

「たすけて！」と大きな声で叫び、周囲の人に伝える事が一番大切だと教えてくれたおまわりさん。

大事な話を真剣に聞いていたこどもたちです。

4.5歳児クラスはもちろんのこと、3歳児クラスのこどもたちも、おとなが言わずとも集中してじっと耳を傾けます。

普段の保育の中でも小さな判断は子供に任せて、必要な時には「みんなでこうしてほしい」と伝え、日々繰り返しています。

「必要な時には、みんなと同じように行動しようと自分で判断する」ということが、こうして身に付いていくのです。

- ③ 訓練の後はパトカーの内部をじっくり見たり、運転席に乗せてもらったり…
特別なひとときをすごしたのです。



様々な場面を想定して行われる保育園での訓練は
命を守るために必要な手立て。
保育士は訓練に対して常に真剣に、感覚を心に刻むように。

胸の底ふかく沈んでいても、いつだって取り出して
実践に活かすことが出来る様にするために。

保育士のそんな取り組む姿勢が
こどもたちにも伝わっていると感じます。

